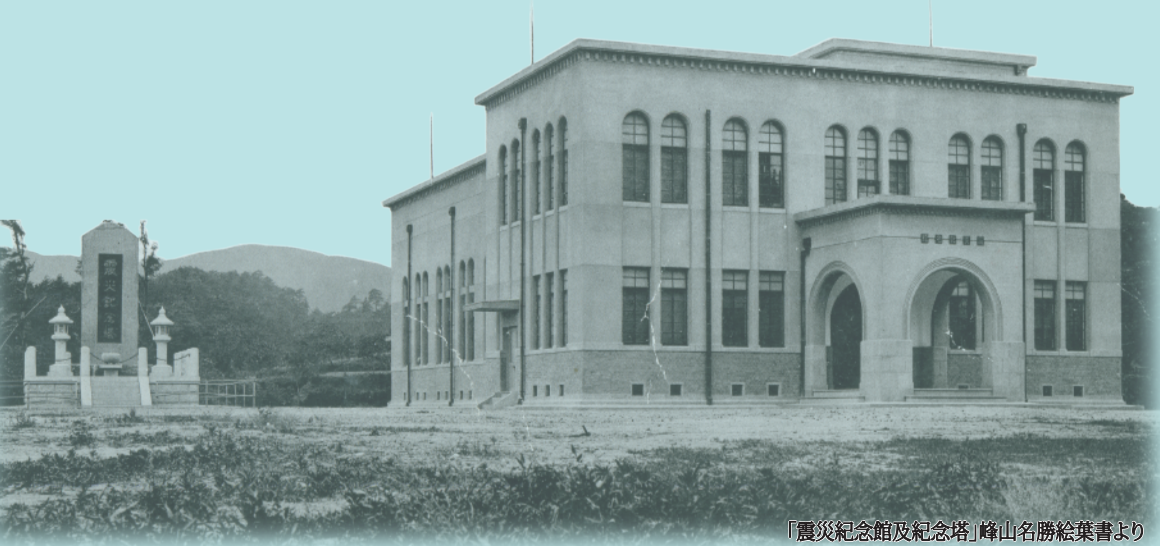




『震災記念館及記念塔』峰山名勝絵葉書より

令和8年度京丹後市立郷土資料館秋期企画展示

伊藤快彦震災画 修復・移設記念展

- 丹後震災100年 -

主催 京丹後市教育委員会・京丹後市立郷土資料館



丹後震災記念館に震災画を掲げる様子
熊野若王子神社 提供



令和8年 8月29日(土)
～
11月28日(土)



震災画を制作する伊藤快彦氏 熊野若王子神社 提供

避難生活の状況を描いた震災画



京丹後市立郷土資料館

- 開 週3日(月・木・土曜日) ※月・木・土曜日は祝日も開館
- 🕒 9:30～12:00 13:00～16:00
- ¥ 大人190円 小・中学生90円 ※小学生未満無料
- 📍 〒629-3133 京都府京丹後市網野町郷55番地
- ☎ 0772-72-4600



展示解説会 9月12日(土) 11月21日(土)
いずれも10:00から 当日終日入館無料



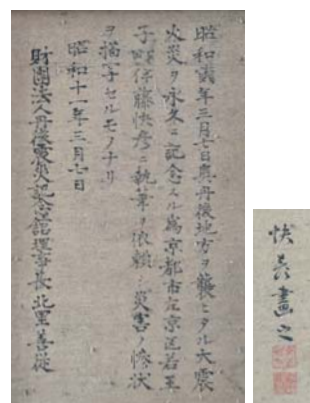
新たに郷土資料館に移設した震災画

昭和2（1927）年3月7日午後6時27分の北丹後地震発生（震源地：網野町郷付近・地震の規模：マグニチュード推定7.3）から、令和9（2027）年3月7日で100年を迎えます。

甚大な被害をもたらした丹後震災を後世に伝えていくため建てられた丹後震災記念館の館内には「震災実況模写油絵ヲ作製シ他ノ紀念物ト共ニ保存スル」ため制作（1936年完成）された、震災画の大作3点が掲げられていました。作者は伊藤快彦（いとうやすひこ、生没年1867-1942）。伊藤は、京都における草創期の優れた洋画家であり、後進の育成にも尽力した画家です。震災画は約90年以上、記念館に掲示または保管されてきましたが、経年劣化による変色、汚れや破れ、剥落などの問題が生じていました。さらに、耐震性の問題から建物内部が現在非公開となっており、近年は絵画自体も人々の目に触れる機会がほとんどありませんでした。

この度、この震災画3点について、汚れ除去や補彩、保護膜塗布など約2年3か月かけて修復を行い、市立郷土資料館へ移設しました。これらにより、震災画を適切に後世に受け継ぎ、かつ多くの人々の目に触れることになることで、丹後震災を風化させず、災害への備えや教訓を広く後世に伝えていく一助となれば幸いです。

今回の修復・移設を記念して、震災画のみならず、その制作目的などについても合わせて紹介する企画展を開催します。震災画に込められた人々の思いを感じて頂ければと思います。



震災画のキャンバス裏面（部分）

右 伊藤快彦落款

左 「財団法人丹後震災記念館理事長」裏書



逃げ惑う人々を描いた震災画



倒壊家屋からの救援活動を描いた震災画



水彩画 裏書「村田博三」

丹後震災記念館に保存されていた
旧京都市美術工芸学校生徒による震災画



油彩画 裏書「12号人物 大島」



水彩画 裏書
「昭和十二年
一月十一日
京都南日吉丁
角田秀雄」

避難生活資料

被災後の看板

右「震災事務所」

左「避難所 計拾七人」

地震発生時刻で時を止めた柱時計
(時計の針が午後6時27分を示す)



火災で焼けた手提金庫



被災資料



火災で溶けたお金